



# デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.4

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 1997. 冬

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。



新緑のブナ林：明るく風がさわやかです。



秋のブナ林：ブナは黄色に色づきます。



初冬のブナ林：来春出る若葉の芽を  
すでにつけています。

## 特別展「知ってますか、森は緑のダム」

特別展『知ってますか、森は緑のダム』は、平成10年5月に群馬県で行われる全国植樹祭に関連して実施される「緑の大地創造事業」の一環として、平成10年3月7日から5月31日まで開催されます。

群馬県の豊かな森林から湧き出る水は、多くのダムに貯えられ、生活用水・工業用水・農業用水

などとして欠くことのできないものとなっています。そのため、群馬県は「首都圏の水ガメ」と言われ、枯れることのない湧き水を作り出す森林は、「緑のダム」と言われています。

この特別展では、森林の役割・はたらき・隠れた特徴をわかりやすく展示したいと考えています。

(学芸課 須永 智)

はじめに

当館常設展示場2階にある、Dコーナー『自然界におけるヒト』の「人間性の起源と進化」には、他の動物にはなくヒトにしか見られない特徴がいつどこで始まったかを、等身大人形を使用したジオラマや科学的復元イラストで展示しています。

このような展示は、これまで、1993年4月に展示をリニューアルしたニューヨークのアメリカ自然史博物館にしかありませんでした。そこで、アメリカ自然史博物館のイアン・タッターソール人類研究部長に展示への全面協力をお願いしました。

直立二足歩行（ジオラマ）

アウストラロピテクス・アファレンシス（以下、アファール猿人）が直立二足歩行を行っている様子を再現したものです。この展示の監修は、アファール猿人を発見した人類起源研究所のドン・ジョハンソン所長にもお願いしました。

アファール猿人の等身大人形は、イギリス在住の芸術家、ジョン・ホームズ氏が1体に約1年かけて製作しました。ホームズ氏は、これまでに大英自然史博物館・アメリカ自然史博物館・台湾国立自然史博物館等にその作品を納入している実績があります。



ホームズ氏には、アカシアの木の幹も一部製作してもらいました。アカシアの木の幹や葉を製作するためには、実際のアカシアの標本がなければなりません。ところが、日本国内にはアフリカ産のアカシアの木は無いことが判明しました。そこで、アフリカのタンザニア在住の考古学者、ピーター・ジョーンズ氏に依頼して、アカシアの木の写真数百枚を撮影してもらい、さらに、アルコールに浸けたアカシアの木の幹と葉の標本を送ってもらい参考資料としました。

ホームズ氏には、アカシアの木の幹も一部製作してもらいました。アカシアの木の幹や葉を製作するためには、実際のアカシアの標本がなければなりません。ところが、日本国内にはアフリカ産のアカシアの木は無いことが判明しました。そこで、アフリカのタンザニア在住の考古学者、ピーター・ジョーンズ氏に依頼して、アカシアの木の写真数百枚を撮影してもらい、さらに、アルコールに浸けたアカシアの木の幹と葉の標本を送ってもらい参考資料としました。

背景画は、アメリカ在住の芸術家ジェフ・ローナ氏が約4ヶ月かけて製作しました。ローナ氏は、これまでアメリカ自然史博物館・フィールド自然史博物館・デンヴァー自然史博物館等でジオラマの背景画を製作してきており、この分野での第一人者です。富岡市に、約6ヶ月滞在してこの「直立二足歩行」の背景画と「埋葬」の背景画を製作しました。初めての海外滞在中で、慣れない習慣や食事と格闘しながらも、毎日、朝10時から真夜中までかけて完成してくれました。

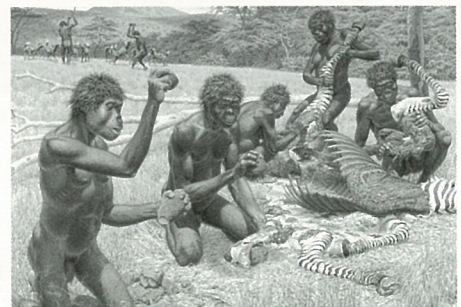
道具の製作と使用（絵）

ホモ・ハビリスが、その場で石器を、製作してシマウマを解体したり、骨を割って骨髄を取り出している様子を再現したもので、縦1.5m×横2mという大きなものです。

この絵は、アメリカ在住の芸術家ジェイ・マターネス氏が製作しました。マターネス氏は、これまでにアメリカ自然史博物館・国立自然史博物館等にその作品を納入している実績があります。また、人類学者の故ルイス・リーキー博士の本の挿し絵や「ナショナル・ジオグラフィック」誌等に作品を多数発表している著名な芸術家です。

マターネス氏は、自分自身でオランウータンを解剖して筋肉と骨のつきかたを研究するなど、数少ないサイエンス・イラストレーターです。今回の復元画を

描く際にも、まず、全身骨格を復元し、次にその骨格に筋肉を付け、最後に皮膚を復元する



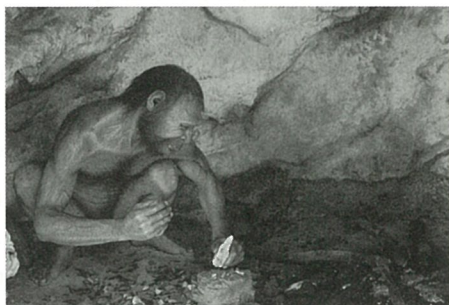
という、レオナルド・ダ・ヴィンチと同じ手法を用いて製作してくれました。

火の使用（ジオラマ）

ペキン原人が、洞窟の中で火を熾している様子を再現したものです。

男性は、石器を製作しているポーズで、火を熾しているポーズの女性は、今年度中には設置される予定です。人形は、「直立二足歩行」と同様、ホームズ氏が製作しました。

男性が製作している石器は、国士館大学の



大沼克彦教授に、ペキン

原人の石器をまねて製作してもらいました。洞窟は、リアル感を出すために広島県にある洞窟を実際に型どりして製作しました。この型どりの調査と監修は、当館の長谷川善和館長にお願いしました。洞窟には、火から出る煤もつけてもらい、リアル感を出しました。

## 埋葬（ジオラマ）

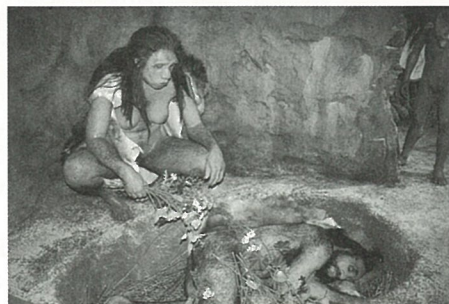
ネアンデルタール人が、死者を埋葬し花を捧げている情景を再現したものです。この中には、4体のネアンデルタール人と色とりどりの花が展示してあります。

人形は、アメリカ在住の芸術家ヴィート・カナラ氏が製作しました。この4体の頭部は、実際に発掘されたシャニダール1号と5号、ジブラルタル1号、ラ・キーナ18号のネアンデルタール人頭骨レプリカに筋肉や皮膚を復元して製作しました。

ネアンデルタール人の髪の毛の色や皮膚の色は、金髪で色白という復元がなされることが多いのですが、金髪の人々の先祖という誤解がされることを恐れて、あえて、黒い髪と褐色の肌にしました。

完成間際に、タッターソール部長から、展示をリアルにするために、死者の眼を見開いた状態にした方が良いのではという示唆がありました。しかし、眼を見開いた状態にすることは、日本では

来館者に抵抗があること、生きている人を埋めているという誤解を招くおそれがあることを説明して、



最終的に眼は閉じた状態にしました。

また、人形が着ている毛皮は、アカシカとノロジカの毛皮をヨーロッパから取り寄せました。

花は、ノコギリソウ、ヤグルマギク、ノボロギク、ムスカリ、タチアオイ、トクサを業者に頼んで実際に栽培してもらい、それから型どりをして製作しました。

背景画は、「直立二足歩行」と同様、ローナ氏がやく2ヶ月かけて製作しました。この製作は、1950年代にシャニダール洞窟を発掘したテキサス工科大学のラルフ・ソレッキ教授から写真をお借りして参考としました。

## 芸術と象徴（絵）

この絵は、いわゆるクロマニヨン人が洞窟内部で粘土製のバイソンの像を製作しているところを再現しました。

この絵も、「道具の製作と使用」と同様にマターネス氏に製作してもらいました。マターネス氏は、この絵の舞台となったフランス南西部にあるテュック・ドゥドゥベール遺跡を実際に訪問し、製作の参考としました。この洞窟は、フランスのベグワン伯爵が持つ個人の土地にあるため、その許可を得て訪問したのですが、写真撮影もスケッチも禁止されたため、

場所を良く観察してイメージを眼に焼き付けた上、ホテルに戻ってスケッチをしたそうです。



## おわりに

今回の展示は、国内及び国外の多くの方々のご協力を得て完成しました。1993年4月から1996年10月までの約3年半の間に、アメリカへの出張2回と数えきれないほどの電話や手紙やファクシミリによる往復書簡は、A4サイズで約800枚という膨大なものになりました。しかし、世界でも2例目、国内では初の展示を完成することができ、苦労も報われたと感じています。

（学芸課 檜崎修一郎）

群馬県立自然史博物館は、平成8年10月22日(火)に開館し、平成9年10月21日(火)で満1歳をむかえることができました。

この1年間で26万8294人もの方々に来館していただきました。この間、開館日は298日間でしたので、1日平均約900人という計算になります。入館者の内訳は、一般の方が一番多く、その後、小・中学生、保育園児・65才以上と続きます(図1参照)。

### 1. 入館者数

以下に入館者の月別ベスト5(図2参照)月別1日平均ベスト5(図2参照)、日別ベスト5を示しました。ただし、平成9年6月は、博物館にとって重要な展示物や収蔵物を保存するために、2週間閉館して燻蒸を行いましたので開館日が短くなっています。

#### ①入館者数の月別ベスト5

ベスト1：平成9年8月	46,747人
ベスト2：平成8年11月	37,037人
ベスト3：平成9年5月	24,134人
ベスト4：平成9年7月	20,832人
ベスト5：平成9年1月	19,643人

#### ②入館者数の月別1日平均ベスト5

ベスト1：平成9年8月	1,731人
ベスト2：平成8年10月	1,601人
ベスト3：平成8年11月	1,425人
ベスト4：平成9年5月	894人
ベスト5：平成9年7月	868人

#### ③入館者数の日別ベスト5

ベスト1：平成8年10月28日 (県民の日)	6,449人
ベスト2：平成8年11月4日	5,189人

ベスト3：平成8年11月3日	4,887人
ベスト4：平成9年5月4日	4,691人
ベスト5：平成9年8月16日	4,481人

### 2. 入館者10万人及び20万人達成

#### ①入館者10万人達成

平成9年2月23日(日)午前10時47分に10万人目の入館者を達成しました。10万人目の入館者は、富岡西小学校3年生の田嶋祐美(満9才)ちゃん、自然史博物館へは初めての来館でした。富岡市黒川に住んでいることから、博物館からも近いこともあり、散歩がてら御家族と一緒に訪れたとのことでした。

#### ②入館者20万人達成

開館239日目の平成9年8月9日(土)午前10時37分に20万人目の入館者を達成しました。20万人目の入館者は、大泉保育園の荻原翔斗(5才)君でした。館林の少年科学館でチラシを見ての来館との事で、幼稚園で自然史博物館では恐竜が見られるということを知り、祖父母に連れられて来館したとのことでした。

### 3. 企画展

#### ①開館記念展(アルゼンチンの大恐竜展)

アルゼンチンの大恐竜展は、平成8年10月22日(火)から平成9年3月2日(日)まで、合計109日間実施し、その間、105,232人の方々が来館されました。これは、1日平均約965人となります。

#### ②第2回企画展(ふしぎな虫たち展)

ふしぎな虫たち展は、平成9年7月19日(土)から8月31日(日)まで、合計38日間実施し、その間、60,985人の方々が来館されました。これは、1日平均約1,605人となります。

(教育普及課長 伊藤 収)

図1

過去1年間の入館者内訳  
(入館者総数：268,294人)

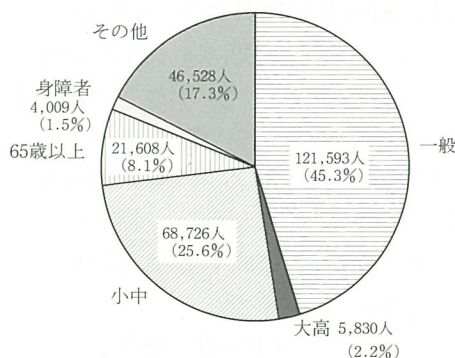
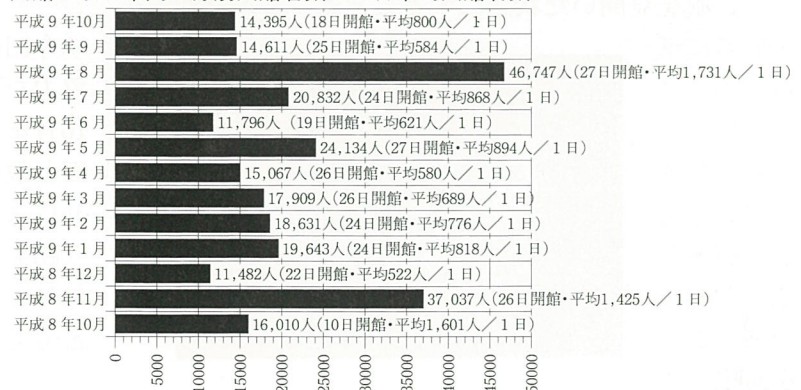


図2

開館から1年間の月別入館者数と1日平均入館者数



## 自然史講座

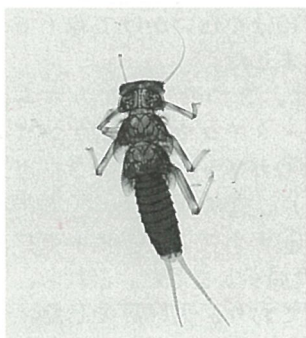
### 「水の汚れのバロメーター：水生昆虫の生活」

9月7日(日)に、自然史講座「水の汚れのバロメーター：水生昆虫の生活」を行いました。

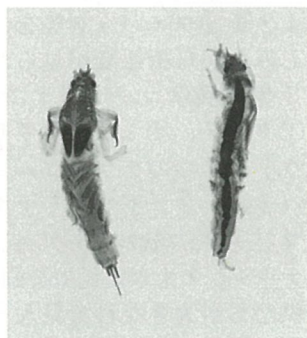
水生昆虫とは、一生涯又はその一時期を水中生活する昆虫の総称です。ここで紹介する水生昆虫とは、カゲロウ、カワゲラ、トビケラなどが中心です。これらは、主に幼虫時代に水中生活をします。しかも、種によって水の汚れに対し強いものと弱いものがあります。汚れに対し強い種ほど川の上流にすることが多く、強い種ほど中流から下流まで幅広くすんでいます。カワゲラなどは、主に上流域のきれいな水にしかすむことができません。カゲロウやトビケラなども、種によって水の汚れに対する耐性に違いがあります。従って、水の汚染度を示す指標生物の一つとなっているのです。

カゲロウとカワゲラの幼虫は大変よく似た体をしています。カゲロウは脚の爪の数が1本、尾は2～3本ですが、カワゲラは爪の数が2本、尾は2本です。トビケラはイモムシ状をしています。

これらの水生昆虫の生活型には、次のようなものがあります。水中の石などに体をくっつけている固着型（アミカヤブユ）、石同士や石と岩盤との間に網を張る造網型（ヒゲナガカワトビケラやウルマーシマトビケラ）、石の下や水中をすべり歩くほふく型（ヒラタカゲロウ、マダラカゲロウ、ヘビトンボ）、体のまわりに巣を携えている携巣型（エグリトビケラやムラサキトビケラ）、水中を泳ぎまわる遊泳型（チラカゲロウ、ミズカマキリ）、水底の砂に潜る掘潜型（フタスジモンカゲロウやトンボ）などです。



▲モンカワゲラ



▲フタスジモンカゲロウ

カワゲラなど水の汚れに弱い種が数多くすめる川の環境を守り育てていきたいものです。

(学芸課 伊勢川 聡)

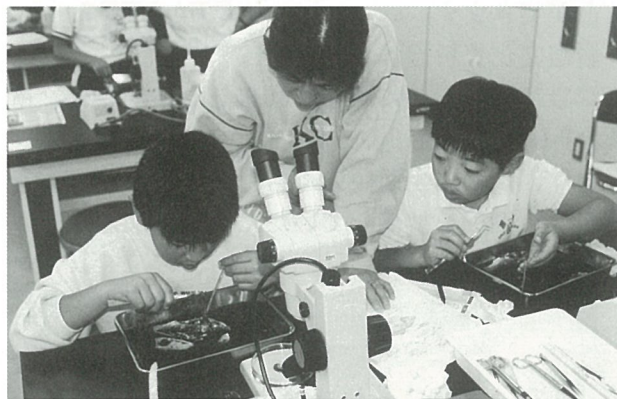
## 自然教室

### 「魚のからだを調べよう」

10月11日(土)と26日(日)に、実験室で自然教室「魚のからだを調べよう」を開催しました。

今回の自然教室では、材料にウグイ・オイカワ・フナを使用しました。まず、魚の外観（「外部形態」と呼びます）を観察し、次に魚の内部のしくみ（「内部形態」と呼びます）が生活のしかたによってどのように違っているかを実際に解剖して確かめました。

魚の外観で何より目立つのは、からだ全体の形とひれ、うろこの数や大きさです。実習では、魚のからだの各部の名前を説明した後、ひれの作りを調べ、実体顕微鏡でうろこを観察しました。また、うろこの表面にあいた側線を作っている穴や、カエデの葉のような形をした色素細胞を確認しました。また、うろこには、木の年輪のようなきれいな模様があることがわかりました。



▲熱心に魚を観察する参加者

後半は魚を解剖して、内部形態の観察をしました。えらぶたを取り除いて、えらを取り出すと、湾曲したえらの内側には、水と一緒に口から吸い込んだえさを濾し取るための、鰓耙さいはという、くしの歯のような構造が並んでいます。フナのように細かいプランクトンを食べる魚ほどこれが発達しています。さらに脇腹の骨や筋肉を切り取って、心臓やうきぶくろ、消化管などを観察しました。消化管は、肉食の傾向が強いウグイやオイカワでは短く、草食の傾向が強いフナでは食べ物の消化をよくするために長いことがわかりました。

「食べる時には、そんなこと気にしたことないのに」と言いながら、子どもたちと熱心に勉強するお父さんやお母さんの姿が印象的でした。

(教育普及課 樺沢 誠)

# ファミリー 自然観察会

## 「岩宿遺跡の見学」

10月12日、岩宿遺跡でファミリー自然観察会を行いました。当日は、まず岩宿遺跡と岩宿ドームを観察した後、岩宿文化資料館を見学しました。

岩宿遺跡は、1949年に故相沢忠洋さん（1926－1989）が黒曜石製の槍先形尖頭器を発見した場所です。この発見により、日本にも旧石器時代が存在したことが初めて証明されました。岩宿遺跡は、1979年に国指定史跡として指定されています。

岩宿ドームは、相沢さんが初めて石器を発見した場所（岩宿B地点）を保護する目的で、1989年に建設されており、中で、地層のはぎ取り標本やビデオを見ることができます。

岩宿文化資料館は、1992

年に岩宿遺跡近くに設立されました。中では、遺跡から出土した多くの石器を見ることができます。当日は、松沢亜生館長さん自ら、原石から石器を製作する過程を披露していただき、参加者の皆さんも喜んでいました。

（学芸課 檜崎修一郎）



原石から石器を製作する松沢館長

## 博物館実習

平成9年7月29日から8月8日まで、休館日を除く実10日間、博物館実習生を受け入れました。今年度は群馬大学4名、信州大学1名、駿河台大学1名、新潟大学1名の7名でした。初めての受け入れということもあり、館もとまどったところもありましたが、問題なく終了することができました。

館長講話、館性格・各課の仕事等の講義、館内及び展示見学、各担当者についての資料整理業務実習・教育普及業務実習、富岡市立美術博物館見学、企画展計画立案実習などといった盛りだくさんの内容でしたが、各実習生ともそれぞれの個性を生かし、がんばって実習をこなしていました。特に、企画展計画立案実習で、実習生は苦勞していましたが、素晴らしい企画展案を提示してくれました。

来年度もほぼ同時期に、実習生を受け入れる予定です。意欲ある方の応募を期待しています。

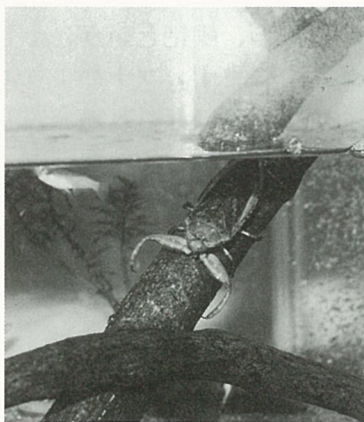
（学芸課 野村正弘）



サマーキャンプの手伝いをする実習生

## 夏の企画展「ふしぎな虫たち」を終えて

第2回企画展「ふしぎな虫たち」を、平成9年（1997年）7月19日～8月31日までの38日間実施しました。この間の総入館者数は60,985人で、最高は8月



タガメの生体展示

16日の4,481人でした。今回は、昆虫研究家の布施英明氏、昆虫写真家の山口進氏、昆虫折り紙研究家の川畑文昭氏のご指導をいただきました。

展示は、以下の4つのパートに分けて行いました。

1. 昆虫ってなんだろう・2. 昆虫折り紙・3. 群馬の自然

と昆虫・4. 巨大昆虫

今回の企画展での特徴的な試みとして、来館者に参加体験をしてもらうための「折り紙コーナー」と「生体展示コーナー」があげられます。

「折り紙コーナー」では、カブトムシ・クワガタ・セミ・チョウ・バッタ等を、10分ぐらいかけて親子で楽しみながら折る姿が見られました。

「生体展示コーナー」では、3つのアクアリウム〔①タガメ、②ミズカマキリ・タイコウチ、③ゲンゴロウ〕と7つのテラリウム〔①カブトムシ、②クワガタ（オオ・ノコギリ・ミヤマ）、③カナブン、④トノサマバッタ、⑤ナミアゲハ、⑥ナナフシ、⑦オキナワナナフシ〕で生きた昆虫を飼育展示しました。どれも、子供たちが大きな目で見入っており、大好評でした。

生体展示は、日々の管理を行う職員の負担が大きいのですが、来館者に喜んでもらえるという点で効果的な展示であることがわかりました。

（学芸課 須永 智）

## 展示解説員から



「ホットケーキおにぎり」。皆さん、これ何のことかわかりますか？ある保育園の子ども達が見学に来たときのこと。みんな忍者のように風呂敷包みを背負っているので、「何が入っているの？」と聞くと、元気よく「ホットケーキおにぎり！」とこたえました。私は何だろうと考えていると、「見せてあげるよ」と言って風呂敷包みを開けてくれました。すると、中から平べったいおにぎりが2つ。「みんなで作ったんだけど、上手に三角にできなくてホットケーキみたいになっ

ちゃったから」と教えてくれました。

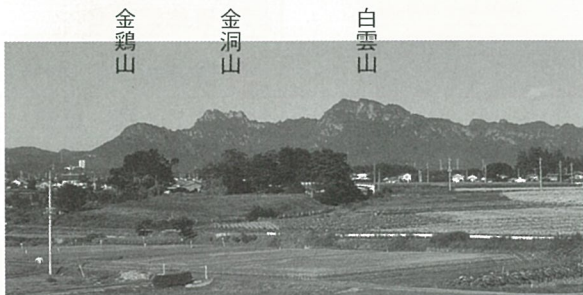
子どもたちの「ホットケーキおにぎり」の目線から博物館の展示物を見ると、私たち大人とは違った世界が広がっているのかもしれない。Bコーナーのブナ林でカモシカの赤ちゃん探しをしたときのこと。子どもたちはなかなか見つけることができません。私が木の根本のカモシカの剥製を指して「これだよ！」と言っても、子どもたちは不思議そうな顔をするばかり。子どもが言いました。「カモミたいなシカどこ？」

解説や図鑑からちょっと離れて子どもの目線でいつもと違った世界を見てみるのも博物館の楽しみ方の一つです。

(展示解説員：堀口光江)

## 〈自然の恵み1（群馬県の天然記念物）「妙義山」〉

妙義山は、赤城山、榛名山とともに上毛三山として群馬県民に親しまれています。今日、妙義山というと白雲山、金洞山、金鶏山を含めた三山の総称を指します。



▲妙義山（近景）

妙義山は約700～550万年前にかけての古い時代の火山活動と地殻変動によってつくられました。おもに、2～5mの厚さの溶岩・火砕岩類などから出来ていますが、その後の風化と侵食の作用により火山の内部が露出しています。妙義山は急峻な地形にくわえて、複雑な地質であるために生い立ちの詳細は分かりませんでした。最近の調査研究では次のような成り立ちが考えられています。

下仁田町四ツ谷の北西方から始まった初期の妙義火山の活動は現在の榛名山くらの火山体をつくりました。やがて地殻変動が激しくなり、陥没地帯が形成され、断層により山体は0.5～2km程度の大小さまざまなブロックに分かれ、それぞれ別々の動きをしました。この活動による断層に沿って筆頭岩などのマグマの活動もありました。この断層の動きは、ブロックの一つである金鶏山の山体を横倒しにしてしまう程の激しいものでした。

いろんな大きさの断層に沿った弱線、火山噴出物の違いにより風化侵食の量に違いができ、現在の奇岩の山が作られました。

史蹟名勝天然記念物保存法により、大正12（1923）年3月7日に名勝に指定されました。所在地は碓氷郡臼井町と北甘楽郡妙義町、小坂村となっています。指定にあたっての説明は「上毛ノ平野ヲ西ニ割セル山脈中突兀トシテ削立スルヲ以テ特ニ著名ナリ赤城榛名山ト併セテ上毛ノ三山ト稱セラレ白雲山、金洞山、錦[ママ]鶏山ノ三峯アリ中央ナル金洞山ニ於テハ山姿岩態最モ多種多様ニシテ石門アリ石柱アリ松楡諸木ノ之ヲ装點スルアリテ一段ノ風致ヲ添フ蓋シ集塊岩ヨリ成レル此種ノ奇岩ハ其ノ數少カラサルモ斯ク一箇所ニ種々ノ形状ヲ成セルモノ少ク関東ニ於ケル代表的ノモノナルヘシ」というものです。

読みやすくすると「群馬県の平野を西でたち割っている山脈の中でも一段と高く険しい姿でそびえ立っていることで有名である。赤城山、榛名山とあわせて上毛三山と呼ばれ、白雲山、金洞山、金鶏山の三峯から成り、中央にある金洞山は山の姿や岩の様子が様々で、石門や石柱があり、それに松やかえでなどの木々がはえて一段とおもむきがあって美しい。火山の噴出物であるゴツゴツした岩から出来ている奇岩は多いが、このように一ヶ所で、さまざまな形状のものを造り出しているのは珍しく、関東地方では代表的なところである。」となります。（副館長 中島啓治）



▲金洞山（第四石門と大砲岩）

## 新収蔵資料

### 藤岡高校のトキ

二階の常設展示室の最後、「人間のために危機に瀕した生物」の展示ケースに、新たにトキの剥製が追加されました。これは本年9月に藤岡高等学校から寄託された標本です。今までも、沼田高等学校から寄託されたトキが展示されていましたが、これで当館が収蔵するトキの剥製は2体となりました。

トキは明治時代の初めまで、日本各地でごく普通に見られましたが、その後、乱獲や農薬の影響で数が激減し、現在日本に生息しているのは、佐

渡のトキ保護センターで飼育されている1羽のみとなってしまいました。世界中でも中国に約20羽が生息しているだけです。

この標本を見ながら、地球の未来をじっくりと考えてみて下さい。(学芸課 井田宏一)



藤岡高校から寄託されたトキ

## インフォメーション (1月～3月の行事)

- 1**
- 10 (土) カード型顕微鏡を作ろう
  - 17 (土) 青く輝くーすばるー
  - 18 (日) 冬鳥の観察
  - 25 (日) カード型顕微鏡を作ろう
  - 31 (土) 三日月と惑星

- 2**
- 1 (日) 博物館での標本の作り方
  - 5 (木) 指導者講習会
  - 15 (日) 目のしくみを調べよう
  - 28 (土) 目のしくみを調べよう
  - 28 (土) オリオン座ーオリオン星雲ー

- 3**
- 1 (日) 富岡地域の地質と化石
  - 7 (土) ~ 5/31(日) 企画展「見てみませんか、私が掘り出した自然の宝もの」  
特別展「知ってますか、森は緑のダム」
  - 8 (日) ローム層と河岸段丘
  - 14 (日) 化石のレプリカを作ろう
  - 22 (日) 企画展特別講演会「群馬の地質 (仮称)」
  - 29 (日) 化石のレプリカを作ろう

### 利用案内

- 開館時間/午前9:30~午後5:00 (ただし入館は4:30まで)
- 休館日/毎週月曜日(祝日の場合は火曜日) 1月5日(月)は開館  
年末年始(12月27日(土)~1月3日(土))
- 観覧料/一般500円(400円) 高校・大学300円(240円)  
小・中学生100円(80円)  
ただし3月7日(土)~5月31日(日)は企画展開催中のため一般700円(560円)、  
高校・大学生400円(320円)、小・中学生200円(160円)  
※1.( )内の数字は、20名様以上の団体割引です。  
※2. 65歳以上・幼児・身体障害者は無料

### ■凡例

- 自然教室
- 天体観望会
- 講演会・シンポジウム
- ファミリー自然観察会
- 自然史講座

### 休館日

○印の日は休館いたします。

1	日	月	火	水	木	金	土
						①	② ③
	4	5	6	7	8	9	10
月	11	⑫	13	14	15	16	17
	18	⑱	20	21	22	23	24
	25	⑳	27	28	29	30	31
2	日	月	火	水	木	金	土
	1	②	3	4	5	6	7
月	8	⑨	10	11	12	13	14
	15	⑯	17	18	19	20	21
	22	⑳	24	25	26	27	28
3	日	月	火	水	木	金	土
	1	②	3	4	5	6	7
月	8	⑨	10	11	12	13	14
	15	⑯	17	18	19	20	21
	22	⑳	24	25	26	27	28
	29	㉑	31				
4	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
月	5	⑥	7	8	9	10	11
	12	⑬	14	15	16	17	18
	19	⑳	21	22	23	24	25
	26	㉑	28	29	30		